第１回 南砺市食育推進計画策定委員会　会議録

１．開催日時：平成２６年９月１６日（火）午後２時
２．開催場所：城端庁舎２階２０３会議室
３．出席者：委員１３名
　　高田会長、大江副会長、河合委員、宮脇委員、横川委員、永森委員、松川委員、渡辺委員、定司委員、野原委員、丸山委員、寺田委員、原田委員
　　事務局（農政課）３名
　　芝井課長、宮下主幹、遊部主任
　　委託業者２名（ＮＡＯコーポレーション）
４．傍聴人数　１名

５．次第　１．開会
　　２．あいさつ（市）
　　３．委員紹介
　　４．会長・副会長の選出
　　５．あいさつ（会長）
　　６．協議事項（１）計画策定の趣旨について
　　（２）計画書構成及び計画書草案について
　　（３）今後のスケジュールについて
　　７．あいさつ（副会長）
　　８．閉会

開会　午後２時

あいさつ（市）
　国の食育基本法、県の食育推進計画で定められた各市町村による食育推進計画について、南砺市は今年度策定します。国もこれから様々な動きがあり、国の補助に対応していくには、しっかりとした食育計画が必要であります。「南砺市らしい食育計画」になりますよう、お願いします。

委員の紹介
（事務局より、食育推進計画策定委員　メンバー紹介）
会長・副会長の選出
（事務局より、高田 勇氏を委員長に提案。拍手で承認。）

（高田委員長より、大江 浩 氏を副委員長に指名。拍手で承認。）

あいさつ（委員長）
　食育基本法が平成 17 年に成立し、富山県も食育推進計画ができました。それを受けての各市町村での計画策定となり、その一連の流れでの策定委員会となります。「南砺市らしさ」をどう出すかということ、また、補助計画でどのような施策を作るか等、皆様ご意見お願いします。

[事務局]
　食育基本法１８条１項にもとづき、この委員会を設置いたしました。「南砺市食育推進計画策定委員会設置要綱」の中の、第７条に「委員会に幹事会を置く」とあります。幹事については、委員長指名となっております。
（事務局より提案。委員長指名。拍手で承認。）

１.協議事項
（１）計画策定の趣旨について
[委員長]
　策定の趣旨を、事務局よりお願いします。

[事務局]
　（第１章１計画策定の趣旨を読み上げ）

[委員長]
　意見については、３～４分ほど時間をおいてから、意見をいただきたいと思います。

[副委員長]
　国の「食育推進計画」を「食育推進基本計画」に訂正してください。趣旨５行目部分は、「家庭と地域が一体」だけでなく、保育所、幼稚園、学校や事業者、行政が連携した形としてください。

[委員]
　「南砺市の特色を活かした」の文言を加えてほしい。

[委員]
　「安心・安全」も加えてほしい。

[事務局]
　次回委員会までに追記、訂正します。

（２）計画書構成及び計画書草案について
[委員長]
　計画の位置づけについて事務局より説明を願いします。

[事務局]
（資料についての説明）第１～５章あり、第２章では、現状と課題があります。３章で推進の方向を、第４章でどのように進めるか具体的な施策があります。第３章で、４本の柱を作りました。「農業の振興」「子どもの食育」「生涯にわたる心身の健康」「伝統食の伝承」です。目標値については、皆様の意見をいただき、反映したいと思います。７ページ以降は、皆様と協議しながら、考えていきたいと思います。15 ページ目の推進方法については、各組織の連携をとりながら、平成 31 年度がおわった時点で、再評価することとしています。

[委員長]
　事務局案の４本柱がありますが、基本方針・基本目標について、委員の方から意見をいただきたい。

[副委員長]
　南砺市らしさを出すために「地産地消」を前面に押して南砺市の特産品についても入れていただきたい。伝統食だけでは弱い。目標値についてですが、「生涯にわたる心身の健康」ついては、南砺市のヘルスプランとの整合性をとっていただきたい。また、高齢者の口腔機能についても取り入れてほしい。南砺市は酒を飲む人の割合が高く、高血圧の方が多いというデータもある。減塩を推奨するなど、逆手にとった形もユニークかと。住民の地区活動が熱心なので、そういった活動を活性化する等を前面にだすのが良いと思います。

[委員]
　南砺市の健康問題ですが、４０－７５歳の健康について、４人に１人は高血圧であり、2.5 人に１人が糖尿病もしくは糖尿病予備軍というデータがあります。地域の特産品との関係等、そういった現状を受けて、「元気で長生き」が南砺市の目指すところではないかと思います。

[委員]

地産地消と伝統食。ヘルスプランで安全で安心。農家の人が安心安全に作った農作物を料理をする時に、塩分の取りすぎ等で健康面を損なう場合がある。

[委員]
地産地消については大賛成です。加えて、市ではエコビレッジを推進しているのでエネルギーの「循環する社会」と供に、食も循環社会にしようと提唱します。一般的な流通ビジネスだけでなく地元の学校や病院で加工食品や農産物を、利用してもらえるような食育としていただきたと思います。

[事務局]
南砺市ではエコビレッジなどもある。地域内循環ということで、一般的な地産地消から、一歩踏み込んだものにしたいと思います。

[委員]
食生活改善協議会では地産地消を取り入れた健康料理に月１回取り組んでいます。城端ポーク、地元の野菜等特産物を生かしたものを、推進していただいています。

[事務局]
具体事例を教えていただきありがとうございます。第４章に反映したいと思います。

[委員]
子供の食育について、学校や保育園で農業体験などがあるが、中学校の心と身体の発達の問題で、授業に集中できないとか、空腹でキレやすいといった現状を目の当たりにしています。朝ご飯を抜いたり、好きなものしか食べない等。学校でもグループにならずに、ひとりで食べさせるクラスもあります。家庭でも食の大切さが解るような、精神授業をしてほしいと思います。

[委員]
未満児について気になります。ペットボトルのジュースやお菓子で肥満傾向にあるように思います。幼少期からの食育についても考えてほしいと思います。

[委員長]
肥満対策については、低年齢での改善が望まれると思います。家庭への配慮の施策を入れていただけるといいと思います。

[委員]

４本柱についてですが、農業振興が最初にあるのは、なじまないような気がします。具体的な施策も言葉を選んでいただきたと思います。

[事務局]
農業を通じた地域振興やグリーンツーや都市農村交流というものを想定し、柱についても考えてみます。

[副委員長]
目標数値の設定については、ヘルスプランと重なっている数値は載せなくてもいいと思います。

[委員]
ヘルスプランでは、病気になっても、重症化しないという大きな目標があるので、生活習慣病の予防という観点からも取り入れていただきたい。

[委員]
ヘルスプランの数値については別紙又は参考値という書き方でどうでしょうか。

[委員]
子供の数値と後期高齢者の数値もあります。

[副委員長]
いろいろな資料や計画からの数値を、整合性をとって載せていただきたい。

[委員]
南砺市らしいものにと思います。ヘルスプランは、平成３４年までの１０年計画です。

[委員]
目標数値については、幹事会で各種計画から抽出し再計画する。総合計画であらたな数値目標を設定することがあります。

[事務局]
食べ物ということで、運動やスポーツの関係で数値的なものがありましたら、教えていただければと思います。たとえば、一日一万歩など。

[委員]
　身体活動運動機能ということで、750 歩以上あるきましょうという目標値がります。20 歳以上になります。

[副委員長]
　幹事会で、次世代育成について検討します。

[委員]
　ライフステージごとに計画があります。

[委員]
　どの計画の各種数値をあてるかということを、幹事会において食育に連動するものをひろうことにしたらどうか。

[事務局]
　幹事会で整備したいとおもいます。P6 施策の体系と取組イメージについては、連携関係などの図式化を行います。抜けているところがあれば、ご指摘ください。

[委員]
　基本方針と基本目標について、農業振興の欄で、南砺市の農業が発展してほしいと思うのですが、自然農法をしている方の野菜を宅配しているところがある。家庭菜園で自分で野菜を育てよう、農家を応援しようというグループをたちあげています。畑で勉強したりなど、無農薬栽培など地球や人間にやさしい農家を応援・育てるような方針も加えてほしい。市内直売所で「無農薬の野菜はありますか」と聞いたが、ないと言われた。小さな子供ほど農薬の影響を受けやすく、アレルギーや小児精神病なども関係していると思うので、できるだけ安心なものを使って、子供の心身の健康を全面にだしたいと思います。9 歳までの食生活が 100 歳までの身体の土台を作るといわれている。「給食と健康を考える会」で２５名ほどで話をしたりしているが、牛乳を選択性にしてほしいとか、地産地消の中でも安全な農作物を使ってほしい。パン食にするとどうしても脂質が多くなる。米飯を勧めたい。全国の学校の 2,000 校は完全米飯になってきている。南砺市が「こどもの教育がしやすいまち」になってほしい。

[委員]
　学校給食では南砺市産のコシヒカリを使用しています。農家を１軒１軒周り、人体に影響のない程度の農薬を使用している畑の野菜を使用しています。例えば、秋から使用するキャベツは虫を手で採っています。お盆休みからは農薬を使用していません。それ

を確認して学校給食に採用している。「なんとの日」（７月１０日）と１１月の給食週間（１週間）に、南砺市のすべての小中学校で地場産食材を活用した同じメニューを提供しています。
パン給食は週に１回。ソフト麺のときもある。

[委員]
　小麦アレルギーのお子さんがあるので、完全米飯給食にしている。ただし、2 歳未満の子どもの場合はパンにすることもある。

[委員]
　全校で地場産食材を利用した同一メニューの回数を増やしたり、減農薬については、低年齢までは取り入れる等の意見ををいただき、出来る施策はやっていただければと思います。特産品もどんどん発信をしていただきたいと思います。

[委員]
　流通の担当をしております。これまでも学校給食の納入もさせていただいております。自分たちの小さい頃は、田んぼの手伝いをさせられた。最近の子供たちは家庭での農業体験の時間が少なくなっているのではないか。農業体験を通じて食べ物の大切さや感謝の気持ちを感じた方がよいのではないか。

[委員長]
　都会も田舎も関係なく、農業あるいは林業の体験がなくなってきている。具体的な取り組み、農業の体験と学校の教育とどう位置付けていくのかということですが、これまでも地域の人とやってきているが、体系的なものはない。
　これから、英語等学校の教育内容が増えて、授業の中で農業体験できる時間が確保しにくくなってくる。そういった中で、委員よりご指摘いただいた農業の体験、食べ物の大切さ、というのは大きな課題になってきているのではないかと思う。

[委員]
　南砺市の特長として、広い土地があるので、各学校で畑など農業をできる環境を整えてほしい。魚が切り身で泳いでいると思っている子どももいる。体験することで、食について学ぶことが出来るのではないか。

[委員]
　農業体験は南砺市らしい取り組みを続けてほしい。学校では、自校炊飯をしている。非常にいいことであると思います。自校炊飯を継続することを南砺市計画に取り込んで

いただきたい。

[委員]
P7 以降は具体的施策を載せてあります。南砺市のめざすべき姿と施策について、多くの事例を教えていただきたい。

[委員]
農業についての勉強や、体験農業などは学校独自に行っている。

[事務局]
P16 以降は市民意識調査や、総合計画等から食育に関係するものを抜粋しました。

[委員長]
今後の予定について、事務局より説明をお願いします。

[事務局]
幹事会を１０月６日１４時３０分から城端庁舎にて開催します。９月３０日までに事務局へ別紙意見書等で提出して下さい。意見については、幹事会ですりあわせさせていただきまして、第２回委員会で結果を報告ます。

（３）今後のスケジュールについて
（今後のスケジュールの連絡）

（４）その他
参考資料として砺波市食育推進計画を配布。最終成果物のイメージとしてご覧ください。

７.閉会
[副委員長]
最初の会でしたが、活発な意見が出て良かったです。南砺らしいご意見を 9 月末までにお願いします。本日はありがとうございました。

以　上